

令和4年度 私立学校若手教員全国研修会・私立学校中堅教員研修会 (東日本・東京会場／西日本・大阪会場／南日本・福岡会場) 実施報告

主催 一般財団法人日本私学教育研究所
後援 日本私立中学高等学校連合会・日本私立小学校連合会

研修テーマ

私学の強みを活かす探究学習 ～未来の学びをデザインする～

令和4年度より年次進行でスタートした高等学校新学習指導要領において重要視され、また変容する社会に生きる子どもたちに今、求められる課題解決能力等の育成に「探究学習」が有効とされている。本研修会は、その効果を最大限に引き出すために必要不可欠な、教員の指導力のブラッシュアップを図り、私立学校だからこそ可能な探究学習とは何か、学ぶ機会とした。

実施概要 (※開催順)

		若手教員全国研修会	中堅教員研修会
南日本・福岡会場	会期	令和4年8月19日(金)～令和4年8月20日(土)	
	会場	リファレンス駅東ビル貸会議室 (福岡県福岡市博多駅東1-16-14-7階)	
	参加人数	22名	31名
西日本・大阪会場	会期	令和4年9月16日(金)～令和4年9月17日(土)	
	会場	新大阪丸ビル別館 (大阪府大阪市東淀川区東中島1-18-22)	
	参加人数	19名	37名
東日本・東京会場	会期	令和4年10月14日(金)～令和4年10月15日(土)	
	会場	フクラシア品川クリスタル(港南) (東京都港区港南1-6-41 芝浦クリスタル品川2階、3階)	
	参加人数	25名	32名
参加対象	都道府県私学協会に加盟する全国の私立小学校・中学校・高等学校・中等教育学校に在職する若手教員(経験5～10年程度)・中堅教員(経験11～20年程度)で学校長が推薦する者。		
参加費	15,000円(昼食費2回含む)※両研修会・全会場共通		

基本日程 (※全会場共通)

時刻	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	0	45	30	30	15	30	15	30	30
1日目	受付	開会式	研修1	研修2	休憩(昼食)	研修3			解散
2日目	研修4			休憩(昼食)	研修5			閉会式	解散

実施日程（※全会場共通）

一日目	時間	プログラム	
	9:45-10:25	開会式 1.主催者挨拶 2.関係者紹介・日程説明 3.所長メッセージ	吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所理事長 ※南 田原俊典 修道中学校・修道高等学校校長 ※西 森 涼 学校法人石川高等学校・石川義塾中学校理事長・校長 ※東 平方邦行 一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長
10:30-11:30		若手・中堅合同・研修1	
	講義「私学人の品格」 講師 鈴木康之 水戸女子高等学校理事長・校長		
11:40-12:30		若手・中堅合同・研修2	
	講演「世界の探究学習の今」 講師 林 寛平 信州大学大学院教育学研究科准教授 ワーク「各校の(探究)授業の現状」 進行・ファシリテーター 広石英記 東京電機大学副学長		
	休憩		
13:30-16:45		若手・研修3	中堅・研修3
	講義&ワーク 「探究学習のサポートの要点」 講師 広石英記 東京電機大学副学長	講義&ワーク 「探究学習の質を高める『問い』とは？」 講師 伊藤貴昭 明治大学文学部准教授	
二日目	時間	プログラム	
	9:00-12:15	若手・研修4	中堅・研修4
	講義&ワーク 「ICT活用」×「探究学習」 ※東・南 講師 今野貴之 明星大学教育学部准教授 「情報活用型PBLではじめる教科で探究する学び」 ※西 講師 稲垣 忠 東北学院大学文学部教授	講義&ワーク 「建学の精神を活かす探究学習のデザイン」 講師 広石英記 東京電機大学副学長	
	休憩		
13:15-16:15		若手・中堅合同 研修5	
	講義&ワーク 「私学の強みを活かす探究学習～未来の学びをデザインする～」 ファシリテーター 広石英記 東京電機大学副学長		
16:30-16:45	閉会式 1.講評 須藤 勉 東京私学教育研究所参与 ※東／西山啓一 学校法人同志社常務理事 ※西・南 2.修了証授与		

私立学校初任者研修等事業検討委員

氏名	所属	担当
森 涼	学校法人石川高等学校・石川義塾中学校理事長・校長	東日本
田原 俊典	修道中学校・修道高等学校校長	西日本
菅沼宏比古	学校法人西海学園理事長	南日本

私立学校〔若手教員研修・中堅教員研修〕運営委員

区分	役名	氏名	所属	担当
北・東日本	運営委員長	須藤 勉	東京私学教育研究所参与	東日本
	運営委員	簡野裕一郎	蒲田女子高等学校校長	東日本
		伊藤 佳貴	大同大学大同高等学校教頭	東日本／南日本
南・西日本	運営委員長	西山 啓一	学校法人同志社常務理事	西日本／南日本
	運営委員	家氏 宏育	姫路女学院中学校校長	西日本
		井上 志音	灘中学高等学校教諭	西日本
		田部 雅昭	梅花高等学校教頭	南日本
		安田 誠	箕面自由学園中学校教諭	西日本／南日本

開会式

主催者挨拶として、各会場において参加者へメッセージが送られた。

吉田 晋・一般財団法人日本私学教育研究所理事長(南日本・福岡会場)

私立学校にとって教員研修の意義とは何か。公立と私立では研修に対する考え方が異なる。

公立は数年で教員が異動するが、基本的に私立は教員の異動がなく、その学校の建学の精神に賛同し、一緒に頑張ろうと志を一つにする先生方が集まっている。研修の意義は、先生方が学校現場で、生徒に効果的に学習させることにある、と私は考えている。私立学校は、1人の教員が研修に参加すれば、その学校内に研修内容が浸透しやすい。生徒たちが卒業後に母校を訪れた際に、かつてお世話になった先生方がいることも私立学校の美点である。皆さんが、私立学校の教員でよかったと思えるよう、また生徒たちが私立学校に通ってよかったと思えるよう、共に励んでいきたい。この2日間を有意義な時間にしてほしい。



田原俊典・修道中学校・修道高等学校校長(西日本・大阪会場)

本研修のテーマに「私学の強み」「未来の学び」とあるが、どれだけ新しい知識やスキルを修得しても、最終的には教員個人の人間性および人間的な魅力が生徒に影響を与えると考えている。そうした人間力を鍛える場として、研修会は非常に適している。普段の学校現場と自分の立場が異なっている研修の場で、人と触れあい、自らの表現力や対話力を磨いてほしい。非日常の機会を存分に楽しみ、また多くを学び取ってほしい。



森 涼・学校法人石川高等学校・石川義塾中学校理事長・校長(東日本・東京会場)

1人一台端末の普及が進み、ICT環境とICTスキルのばらつきの2点が課題になってきた。新学習指導要領においては探究学習とアクティブ・ラーニングがキーワードになっている。新科目「情報」も新設され、令和7年度より大学入学共通テストにおいても「情報」が新教科となる。さらに観点別評価の導入にスクールポリシー策定の義務化など、昨今改革が目白押しである。最も肝要なことは、変化に機敏に対応しながら私学の自主性、先進性を活かしていくことである。2日間の研修では様々な学びや気づきがあると思うが、どうか学校に持ち帰り、明日からの教育に役立ててほしい。



所長メッセージ

続いて、国内外の絵画作品の例示と共に、所長よりメッセージが送られた。

平方邦行・一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長

世の中は絶えず変容している。長期間、海外に滞在していた者が日本に帰国し、日本の停滞感に愕然としたと言っていた。私学の強み・弱みを意識して、将来の教育を考えてほしい。世界は100年ごとに、大きな転機を迎えている。近年でいえば、1989年にドイツでベルリンの壁が崩壊され、日本では昭和が終わった。その100年後の2089年の社会を見据え、その時代に生きる今の子どもたちのためにどのような教育をしたらよいか考え、感性を豊かに保ち、教育活動に向かってほしい。



若手・中堅合同 研修1「私学人の品格」/鈴木康之・水戸女子高等学校理事長・校長

鈴木講師は、東日本大震災発生時に同校が被災した経験から、新校舎の再建と、2012年より毎年訪れている南三陸町のエピソードを交えながら、「すべてを飲み込んでベストを尽くすこと」の大切さや、先入観を持たず生徒に向き合うことの重要性を説いた。また、震災の風化が危ぶまれることに危惧の念を示し、教員生活を送る上でお世話になる人々への感謝や恩義を「忘れてはならない」とし、「不登校の生徒への対応も労力を惜しまず、一つ一つの仕事に使命感をもって取り組んで欲しい」と述べた。



最後に、「我々教員の評価は、生徒の人生からいただくものである。これからも厳しい時代が続くだろうが、『生き残る私学』ではなく、『なくてはならない私学』であるよう、気概をもって励んでほしい」と述べ、講演を締め括った。

若手・中堅合同 研修 2 「世界の探究学習の今」／林寛平・信州大学大学院教育学研究科准教授

「各校の(探究)授業の現状」／広石英記・東京電機大学副学長

林講師は今年度 8 月より在外研究期間のため、約 20 分間の講義収録動画を再生した。比較教育学の知見から、新型コロナウイルス感染拡大が世界の教育現場に与えた影響や、欧州、米国、日本を含むアジアの学習環境の変遷などが紹介された。その後、遠隔会議システムを使用し、広石講師の進行により参加者と質疑応答した。続いて広石講師は、ワークシートを用いて各校の(探究)授業の現状について振り返りを促し、本研修会の到達目標を提示し、研修会全体の目標を「特定の条件で探究学習をデザインできるようにする」とし、午後からの研修につなげた。



若手・研修 3 「探究学習のサポートの要点」／広石英記・東京電機大学副学長

午後より若手と中堅に分かれ、若手は広石講師による講義とワークが行われた。広石講師は学びの構造について解説し、探究は本質的な学びの姿勢であるとした。若手教員に求められるフォロワーシップと、期待される姿勢(貪欲に学ぶ、何事にも挑戦するなど)を示した。ワークシートを用いて私学教育の現状理解を深め、建学精神の再構造と教育目標の鮮明化を図り、教育目標を具現化する独自の教育活動について各自でアウトプットし、最後に全体で共有した。

中堅・研修 3 「探究学習の質を高める『問い』とは？」／伊藤貴昭・明治大学文学部准教授

伊藤講師は、探究学習の第一段階である課題の設定を行う際に、どのような問いを立てるかが肝要であると説明し、ワークショップでは 5～6 人程のグループごとに、良質な問いを立てるため問いを出し合い、それらを改善する活動を行った。



若手・研修 4 「ICT活用」×「探究学習」／今野貴之・明星大学教育学部准教授(東日本・南日本)

「情報活用型 PBL ではじめる教科で探究する学び」／稲垣忠・東北学院大学文学部教授(西日本)

今野講師は、研修の目標を「1. ICTを用いた教育のメリットを説明できる、2. 児童生徒が探究を遂行する際にどのようにICTを用いるのかイメージできる」と設定し、日々の授業にICTを活用するポイントや、探究学習と情報活用能力について解説した。



稲垣講師は、情報活用型PBLをデザイン思考でつくる手法を解説した。学習活動カードとワークシートを使用して各教科での探究学習のプロセスを可視化し、進めていく手法を紹介し、実際に参加者も各自の担当教科で情報活用型PBLの設計に取り組んだ。

中堅・研修 4 「建学の精神を活かす探究学習のデザイン」／広石英記・東京電機大学副学長

広石講師は、「問いから始まる学びが探究である」とし、中堅教員について「管理職と若手教員の間で組織の要(結節点)の役割が期待される」と述べた。また、私学の強みは「独自の建学精神と、伝統に裏打ちされた教育理念・目標など不易の価値がある点」とし、これを軸にカリキュラム・マネジメントを設計して探究学習をデザインする手法をワークショップで紹介した。

若手・中堅合同 研修 5 「私学の強みを活かす探究学習～未来の学びをデザインする～」

／広石英記・東京電機大学副学長

2 日間の両研修会の総仕上げとして、広石講師の進行により、若手教員と中堅教員が合同でワークショップを行った。先の中堅・研修 4 で取り組んだ内容を基に、若手教員と中堅教員が混在する 4 人一組のグループで、地域や学校種など一定の条件が設定された架空の私立学校を想定して、建学精神を活かした探究学習の設計に取り組んだ。



閉会式

各運営委員長より講評として以下のメッセージが送られた。

講評 西山啓一・私立学校[若手教員研修・中堅教員研修]運営委員長(南・西日本)／学校法人同志社常務理事



参加された先生方が熱心に受けられている様子を見て、今後の教育の未来は明るいと感じた。本研修会を機に、各自の勤務校の強みは何か、私学に勤める自身の強みは何か、問い直してほしい。それらはそれぞれ自校への誇り、教師としての自信につながっていくだろう。本研修会で学んだ内容を、各校で実践して初めて研修が完結する。ぜひ勤務校に戻り、生徒と共に学びを深めていただけるよう期待を込め、今後の各自の活躍を祈念する。

講評 須藤 勉・私立学校[若手教員研修・中堅教員研修]運営委員長(北・東日本)／東京私学教育研究所参与

探究型の学習は、世界的な社会情勢の変化の中で必要不可欠になってきていると認識した上で、教育そのものも変化を遂げる中、新しい考え方や価値観を持つ子どもたちをどのように育てていくか、各自で「探究」して欲しい。勤務校へ戻られてからの実践は勿論だが、本研修会で知り合った先生方とのつながりを大事にして欲しい。先生方が前向きに頑張る姿から、生徒たちに伝わるものが必ずある。今後も研鑽を積んで欲しい。



参加者アンケートより

若手・中堅合同 研修 1 「私学人の品格」／鈴木康之・水戸女子高等学校理事長・校長

- 「生き残る私学ではなく、なくてはならない私学を目指す」という言葉が今後の目標となった。(若手・南)
- 経験に基づく講演から、私学人としての本気度が伝わり、自らの価値観を考え直すことができた。(中堅・南)

若手・中堅合同 研修 2 「世界の探求学習の今」／林寛平・信州大学大学院教育学研究科准教授

「各校の(探究)授業の現状」／広石英記・東京電機大学副学長

- 世界の授業形態や探究学習の実例から、日本の教育を客観視することができた。(若手・西)
- 海外の探究学習の事例がわかり、学びの質について具体的に考えられた。(中堅・東)

若手・研修 3 「探究学習のサポートの要点」／広石英記・東京電機大学副学長

- なぜ探究学習が大事なのか、本質的なところから理解できた。(若手・西)
- グループワークを通して他校の取り組みを知ることができ、自校の取り組みを相対化できた。(若手・南)

中堅・研修 3 「探究学習の質を高める『問い』とは？」／伊藤貴昭・明治大学文学部准教授

- 「問い」一つで思考が変わる体験をグループワークで学ぶことができた。(中堅・東)
- 自分の授業におけるテーマの深め方について、課題を見つけることができた。(中堅・西)

若手・研修 4 「ICT活用」×「探究学習」／今野貴之・明星大学教育学部准教授(東日本・南日本)

- 即実践できそうなヒントが得られ、自らの授業設計や端末の使い方をアップデートできると感じた。(若手・東)
- 根本的なICT活用法から学ぶことができ、自校に戻って活用してみたいことも多く得られた。(若手・南)

若手・研修 4 「情報活用型PBLではじめる教科で探究する学び」／稲垣忠・東北学院大学文学部教授(西日本)

- 実際にデザインシートを作成し、PBLをつくり実践するイメージを持つことができた。(若手・西)
- イラスト入りのカードの使用は、生徒も視覚的に理解しやすく今後役に立たいと感じた。(若手・西)

中堅・研修 4 「建学の精神を活かす探究学習のデザイン」／広石英記・東京電機大学副学長

- 建学の精神をどのように噛み砕き、探究学習につなげていくか理解できた。(中堅・東)
- 具体的に手法や考え方も理解できたので、自校で生徒とともに実践してみたい。(中堅・西)

若手・中堅合同 研修 5 「私学の強みを活かす探究学習～未来の学びをデザインする～」／広石英記・東京電機大学副学長

- 単に探究学習を行うのではなく、「どのような資質を身に付けるか」は常に意識すべきだと感じた。(若手・西)
- 若手の先生方と一緒に取り組むことで、新たな視点が得られ気づきが多かった。(中堅・東)

都道府県別参加者数

◇若手教員全国研修会（東／西／南合計）

No.	都道府県名	参加申込者数	No.	都道府県名	参加申込者数	No.	都道府県名	参加申込者数
1	北海道	0	17	石川	0	33	岡山	0
2	青森	0	18	福井	0	34	広島	5
3	岩手	0	19	山梨	0	35	山口	0
4	宮城	1	20	長野	0	36	徳島	0
5	秋田	0	21	岐阜	0	37	香川	2
6	山形	0	22	静岡	0	38	愛媛	0
7	福島	0	23	愛知	5	39	高知	1
8	新潟	0	24	三重	3	40	福岡	2
9	茨城	1	25	滋賀	0	41	佐賀	3
10	栃木	0	26	京都	2	42	長崎	2
11	群馬	0	27	大阪	5	43	熊本	2
12	埼玉	1	28	兵庫	4	44	大分	1
13	千葉	3	29	奈良	2	45	宮崎	1
14	神奈川	2	30	和歌山	0	46	鹿児島	1
15	東京	13	31	鳥取	1	47	沖縄	3
16	富山	0	32	島根	0			
							計	66

◇中堅教員研修会（東／西／南合計）

No.	都道府県名	参加申込者数	No.	都道府県名	参加申込者数	No.	都道府県名	参加申込者数
1	北海道	3	17	石川	5	33	岡山	1
2	青森	0	18	福井	0	34	広島	5
3	岩手	0	19	山梨	0	35	山口	0
4	宮城	2	20	長野	2	36	徳島	0
5	秋田	0	21	岐阜	3	37	香川	1
6	山形	1	22	静岡	1	38	愛媛	0
7	福島	1	23	愛知	7	39	高知	0
8	新潟	1	24	三重	3	40	福岡	11
9	茨城	2	25	滋賀	0	41	佐賀	2
10	栃木	0	26	京都	1	42	長崎	1
11	群馬	0	27	大阪	4	43	熊本	5
12	埼玉	1	28	兵庫	4	44	大分	3
13	千葉	3	29	奈良	1	45	宮崎	1
14	神奈川	1	30	和歌山	0	46	鹿児島	9
15	東京	11	31	鳥取	3	47	沖縄	1
16	富山	0	32	島根	0			
							計	100

令和4年12月6日